

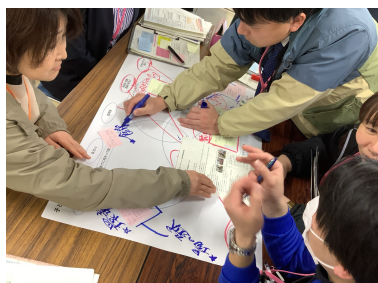
## 架け橋期の教育の充実に向けて ～幼児教育と小学校教育の学びをつなぐ～

大分県教育庁幼児教育センター幼児教育スーパーバイザーの武津智美先生を招聘し、幼小合同リカレント研修を実施しました。本研修は、令和5年度よりスタートし、今回で3度目の開催となりました。今年度も、大分大学教育学部附属校園の幼小連携の充実に向けて、幼小の教職員同士が繋がることを目的とし、武津スーパーバイザーの講義を受講したり、グループで演習したりしました。



講義の中で、架け橋期が重視されるようになった経緯や現在の動向、幼児教育と小学校教育、互いの教育を理解し合うことの大切さ等について、多くのご示唆をいただきました。

「幼児教育と小学校教育が繋がるためには『カリキュラムが繋がる』ことが大切」であることについて、昨年度も話があり、大分大学教育学部附属幼小でも、それぞれの担当者が打ち合わせを重ねながら、『架け橋期のカリキュラム』を作成してきました。今回、附属幼小の子供達に関わる教職員でカリキュラムの見方や内容、取組の実際や指導上の配慮事項等について共通理解の場を設定することができたことは、非常に大きな一歩だったと考えます。



互いの教育を理解し、繋げるために、幼小の教職員で構成したグループで演習も行いました。

小学校職員が事前に幼稚園に園児の様子や教師の援助を参観に行き、「いいな」と思った姿や「聞いてみたい」と思った素朴な質問について、付箋に書いていました。それを「架け橋期に期待する子ども像」「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」と照らし合わせながら、グループごとにまとめていきました。

「サファリごっこでの活動が、実際のサファリ見学での動物への接し方や、園での動物の飼育に繋がっていると感じた。」「自然との関わり・生命尊重」に関わると思った。」「自分のもの、自分の場所がわかるようにするための教師の環境構成がすごい。これは子供の“自立心”に繋がる支援だと思う。」等、園児や教師の具体的な姿から感想や質問を出し合って整理していきました。演習を行うことで、主体的な園児の姿のこれまでの経緯や、教師の環境整備・声かけの意図等について知ることができ、小学校でも取り入れたい実践について考えることができました。

「1年生はゼロからのスタートではない」こと、「幼稚園で培った資質・能力を伸ばす」ことの大切さを改めて武津スーパーバイザーや幼稚園職員、そして子供達から学び、教職員同士が繋がる研修となりました。

今後も、架け橋期カリキュラムの共通理解を図り、附属幼小の連携の充実に向けて、それぞれの教職員が保育力と授業力の向上に努めていきます。